めぐみイエス・キリスト教会

2026年2月15日(日)第三主日礼拝
午前10時より
週報「通算第795号」

2026年標題聖句
ヨハネの福音書14章1節～2節
《「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、また私を信じなさい。私の父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、私は場所を備えに行くのです。」(新改訳第Ⅱ版)》

礼拝　毎週日曜日　午前10時～11時
聖書の学びと祈り会　毎週水曜日　午後6時～(各家庭にて)

牧師　鈴　木　竜　実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】
【賛　美　Ⅰ】新聖歌282「見ゆるところによらず」p. 450
【交　読　文】№4　詩篇第18篇（抜粋）　p. 881
【賛　美　Ⅱ】新聖歌434「語り告げばや」　p. 700
【使徒信条】
【主の祈り】
【前回説教】
【賛　美　Ⅲ】オリジナル曲「キリスト賛歌」
【聖書朗読】ルカの福音書12章22節～30節
【礼拝説教】「何を食べようか、何を着ようか」
【聖　餐　式】
【賛　美　Ⅳ】新聖歌165「栄光イエスにあれ」　p. 235
【平和祈り】
【頌　　栄】新聖歌63「父・御子・御霊の」　p. 85
【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所（ルカ伝12章22節～30節新約p. 141下段）
●ポイント1．主イエスが話された同じ教えとは？
※マタイの福音書6章24節～21節「山上の垂訓から」(新約p.10下段)
6:24「だれも二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛することになるか、一方を重んじて他方を軽んじることになります。あなたがたは神と富とに仕えることはできません。
6:25　ですから、私はあなたがたに言います。何を食べようか何を飲もうかと、自分のいのちのことで心配したり、何を着ようかと、自分のからだのことで心配したりするのはやめなさい。いのちは食べ物以上のもの、からだは着る物以上のものではありませんか。
6:26　空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納める

こともしません。それでも、あなたがたの天の父は養っていて下さいます。あなたがたはその鳥よりも、ずっと価値があるではありませんか。
6:27 あなたがたのうちだれが、心配したからといって、少しでも自分のいのちを延ばすことができるでしょうか。
6:28 なぜ着る物のことで心配するのですか。野の花がどうして育つのか、よく考えなさい。働きもせず、紡ぎもしません。
6:29 しかし、私はあなたがたに言います。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも装っていませんでした。
6:30 今日あっても明日は炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたには、もっと良くして下さらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ。
6:31 ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。
6:32 これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。
6:33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。
6:34 ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。苦労はその日その日に十分あります。」

●ポイント2. これからの世界に起きることとは？

※黙示録6章6節「小麦と大麦の凶作」 (新約p.498下段)

6:6 私は、一つの声のようなものが、四つの生き物の真ん中でこう言うのを聞いた。「小麦一コイニクスが一デナリ。大麦三コイニクスが一デナリ。オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。」

※黙示録8章8節「海への裁き」 (新約p.501上段)

8:9 また、海の中にいる被造物で、いのちのあるものの三分の一が死に、船の三分の一が壊された。

◎先週のメッセージ【ある金持ちのたとえ】

《「どんな貪欲にも気をつけ、警戒しなさい。人があり余るほど持っていても、その人の命は財産にあるのではないからです。」

　それから主イエスは貪欲について、一つのたとえを話されました。「ある金持ちの畑が豊作であった。『どうしよう。私の作物をしまっておく場所がない。こうしよう。私の倉を壊して、もっと大きいのを建て、私の穀物や財産はすべてそこにしまっておこう。そして、自分のたましいにこう言おう。「わがたましいよ、これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ休め。食べて、飲んで、楽しめ。」』

　この「金持ち」は、一生懸命働いて自分の手で財を築きあげたと思われます。しかし神様は彼のことを、「愚か者」と呼んでいるのです。『愚か者、おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』

　たとえ、多くの財産を持っていたとしても、人は自分の命を長らえることも、また、「永遠のいのち」をも買うことは、出来ないのです。

　人生で一番大切なことは、真の神様、救い主イエスに出会うことであり、罪から救われ、「神の子ども」にされることにあります。

　ルカは16章に、主が話された「貧乏人ラザロと金持ち」の話を書き記しています。多くの学者は、これは実話であって、12章の「たとえ話」の続きであると考えています。ラザロは、ある金持ちの門前で乞食をやっていました。やがて、ラザロは召され、それから金持ちも死ぬことになります。すると、金持ちは地獄の炎の中にいて、ラザロは、父アブラハムの懐にいることが分かります。伝承では、この金持ちの名前はダイブスで、もし彼が生きている間に悔い改め、その富で、ラザロや多くの貧しい者を助けていたとしたら、結末は全く異なっていたはずです。しかし、そのことに気づいた時には、もう手遅れなのです。地獄は現実に存在します。そして、天国(御国)も実在するのです。》

◎お知らせ

※第4主日礼拝は、2026年2月22日(日)午前10時から行ないます。